



Path Analysis の設定

この章では、Path Analysis の概要を説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [Path Analysis の概要 \(P.26-2\)](#)
- [コール詳細レコードのロギングの設定 \(P.26-3\)](#)

Cisco CallManager と組み合わせて Path Analysis を使用するには、CiscoWorks2000 サーバに Common Management Foundation 1.1.1 Voice Manager パッチをインストールする必要があります。

Path Analysis の概要

Path Analysis は診断アプリケーションで、ネットワーク上の指定された 2 ポイント間の接続性をトレースします。Path Analysis は、これらのポイント間を流れるパケットが通る物理パスと論理パス（レイヤ 2 およびレイヤ 3）の両方を分析します。

コールの完了後、PathTool は発信側と着信側の電話番号を指定して、オーディオパケットのルートをトレースします。このトレースは、Cisco IP Phone、端末ゲートウェイに接続したアナログ デバイス、またはトランク ゲートウェイ（アナログまたはデジタル）の任意のエンドポイント間のコールに適用されます。

詳細については、CiscoWorks2000 のオンラインヘルプを参照してください。

この章の情報は、Cisco CallManager を設定する際に役立ちます。CiscoWorks2000 Campus Manager では、マップ、トレース ログ、またはテーブルの形式で、トレースしたパスを表示できます。

関連項目

CiscoWorks2000 の詳細については、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/rtrmgmt/cw2000/index.htm>

コール詳細レコードのロギングの設定

Voice over IP (VoIP) トレースをアクティブにできるのは、Call Detail Record (CDR; コール詳細レコード) ロギングが使用可能になっている Cisco CallManager がインストールされている場合だけです。デフォルトの状態では `disabled` が指定されています。

Cisco CallManager Administration ウィンドウから CDR ロギングを使用可能にするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 **Service > Service Parameters** の順に選択します。
- ステップ 2 Cisco CallManager サーバの IP アドレスを選択します。
- ステップ 3 **Next** をクリックします。
- ステップ 4 Cisco CallManager サービスを選択します。
- ステップ 5 **Parameter Value** フィールド内で、**Cdr Enabled Flag** サービス パラメータに対して **True** を選択します。
- ステップ 6 **Update** をクリックします。

コール詳細レコードのロギングが即時に開始されます。



注意

ボイス接続のトレースを行うには、クラスタ内のすべての Cisco CallManager サーバ上で CDR ロギングを使用可能にする必要があります。

■ コール詳細レコードのロギングの設定